

2021年5月12日

各 位

会 社 名 株式会社 ストライダーズ
 代表者名 代表取締役社長 早川 良太郎
 (JASDAQ・コード9816)
 問合せ先 取締役管理本部長兼CFO 梅原 純
 電 話 03-5777-1891

特別利益の計上(債務免除益)及び業績予想と実績値との差異に関するお知らせ

当社は、下記のとおり特別利益(債務免除益)を計上する見込みとなりました。また、2020年11月11日に公表いたしました、2021年3月期(2020年4月1日~2021年3月31日)の通期連結業績予想と2021年5月12日公表の実績値との間に差異が生じたので下記の通りお知らせいたします。

記

1. 特別利益の計上(債務免除益)の内容

当社の連結子会社であるPT. Citra Surya Komunikasiにおいて、同社の旧資本関係下における関連会社との間で発生していた借入金債務につき、関係者間で債権放棄の合意が整ったことにより、78百万円の債務免除益を計上したものです。

2. 2021年3月期通期連結業績予想と実績値との差異(2020年4月1日~2021年3月31日)

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に 帰属する当期 純利益	1株当たり 当期純利益
前回発表予想(A)	百万円 11,000	百万円 105	百万円 150	百万円 110	円 銭 12.98
実績値(B)	10,482	114	228	114	13.47
増減額(B-A)	△518	9	78	4	—
増減率(%)	△4.7	8.6	52.0	3.6	—
(ご参考)前期実績 (2020年3月期)	13,276	256	254	151	17.48

3. 差異の理由

経常利益は、ホテル事業における休業シフトが想定を上回る規模となり、それに伴う雇用調整助成金申請額も想定を上回る金額となったことから、営業外収入が増額し、見通しに対して52.0%増加する結果となりました。

一方、親会社株主に帰属する当期純利益は、損金算入されない損失(持分法による投資損失や減損損失等)を計上したこと、また、当社の連結子会社である株式会社倉敷ロイヤルアートホテルの当期純損失分は連結納税の対象外としていること等を主因として、課税所得が会計上の税金等調整前当期純利益を大きく上回った結果、法人税負担が増加し、見通しに対して3.6%の増加になりました。

以 上